

平成 2 7 年度

第 2 回宮崎市総合教育会議

会 議 録

平成27年度 第2回宮崎市総合教育会議 会議録

- 1 日 時 平成28年1月21日(木) 14:00～15:30
- 2 場 所 教育情報研修センター 大研修室
- 3 出席者 戸敷市長

【教育委員会】

二見教育長、松野代表教育委員、藤元委員、崎田委員、畠山委員

武田地域振興部長、永井福祉部長、企画財政部杉松参事
企画政策課 河野主幹、勢井主査

【事務局】

二宮教育局長

(企画総務課) 時任課長、田實補佐

宮畑主幹、関本主査、佐藤主査、茂田主任主事

(学校施設課) 福島課長

(学校教育課) 松竹課長

(生涯学習課) 染矢課長

(保健給食課) 山本課長

(文化財課) 森田副主幹

4 協議事項

- ・宮崎市教育大綱の策定について

5 意見交換

- ・子どものいじめをストップできる力の育成について

二宮教育局長	<p>ただいまから、平成27年度第2回宮崎市総合教育会議を始めさせていただきます。はじめに、会議の主宰者である、戸敷市長がご挨拶いたします。</p>
戸敷市長	<p>皆様こんにちは。大変お忙しい中お集まりいただきまして、感謝を申し上げたいと思います。この会議は本年度2回目になりますが、昨年度教育委員会制度が70年ぶりに改正され、また市長が総合教育会議を設け、皆様方の意見を聞き、それをしっかりと教育行政に反映をするという流れになりました。</p> <p>さて、今年の教育関係の話題と言えば、18歳以上の国民が選挙権を得るという改革がございますが、投票権が出てくるという状況ですから、幼児教育から小中高教育、生涯教育をいかに充実していくかということが、一般行政と教育行政に、課せられた重大な課題であり、解決していかないといけないと考えております。</p> <p>総合教育会議を開催し、皆様からいろいろなご意見をいただきながら、一般行政と教育行政が一体化して仕事ができるという状態になったということで、予算を司る一般行政も含めて連携ができるのではないかと考えております。ここでの意見を予算に反映し、実際に皆様方で各施策を実施していただきたいと考えています。一般行政と教育行政が連携しながら素晴らしい人財を育成するという事は、大きな課題であり、それを解決し、実行するという流れが市町村に委ねられているということだと思っています。</p> <p>私どもは、まちづくりは人づくりと思っています。人間を形成する段階では、人づくりはなにかと非常に難しい点があるかと思いますが、10年、20年後にはしっかりと成果を生むということを考えますと、人づくりを実践していくことへの喜びが生まれ、意気込みもしっかりともてるようになると思っています。</p> <p>昨年、一般質問等でもありましたが、いじめの問題等で件数が多いのではないかという話もございました。件数が多い少ないではなく、調査結果を基に現場をいかに把握するかが大事ではないかと思っていますので、現場にしっかりと足を据えてやっていただきたいと思っています。</p> <p>また皆さんとこのように問題を共有できるということは、非常にありがたいと思います。今日も、いろいろなテーマを受けながら、皆様のご意見を十分に拝聴してまいりたいと思っています。よろしく願いいたします。</p>
二宮教育局長	<p>ありがとうございました。 続いて、二見教育長がご挨拶いたします。</p>
二見教育長	<p>昨年4月に、戸敷市長の英断により、県内では本市がトップをきって新制度へ移行したわけでございます。今年度、26市町村の中で7つの市町村が新制度へ移行するという事でありまして。本市では、制度移行にあたり、松野委員を代表教育委員として呼ぶことや会議の運営方法の見直しを図るなど、教育委員会の活性化や会議内容の透明化に努めているところでございます。</p> <p>松野代表教育委員には、本市教育委員の代表としての職務はもとより、県内の教育委員会で組織されます宮崎県市町村教育委員会連合会の会長としての重責を担っていただいているところであります。</p>

さて、5月の第1回目の総合教育会議を終えた直後の教育委員会定例会におきまして、委員の皆さんに会議の感想を伺っておりますので、一部を紹介させていただきます。

第1回目ということで、非常に緊張した会ではありましたが、日頃から連携を取らせていただいておりますので、ゆっくりした気持ちで、言いたいことを言えたということが本音でした。

市長のお考えは、やはり市民目線であり、小規模校の対策などの考え方についても大変心強く思った。私が言った「覚悟」という言葉を市長が受け入れてくださり、私はいい市長を持ってよかったと感じた。これまで市長と意見交換を続けてきたこともあり、会議に安心感を持って臨むことができ、今後もこのまま連携を保っていききたいと思った。といった内容でありました。

私も、市長の教育行政に対するお考えをよく理解することができた会議であったと思っております。また教育委員会といたしましても、これまで通り、市長との連携を密接にしておく必要性を強く感じたところでありました。

本日は、本市の教育大綱の策定についての協議の場ということでございますので、私たちといたしましても、教育大綱は本市教育行政の方向性を示す重要なものとして認識しております。教育委員会といたしましては、新しく策定されます、教育大綱の推進につながるような意見を述べさせていただこうと思っております。

また、本日は、教育現場に喫緊の課題であり、密接したテーマを取りあげていただき、意見交換をさせていただけるということでございますので、本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

二宮教育局長

ありがとうございます。それでは、会次第に沿って進行させていただきます。ここからの進行につきましては、戸敷市長にお願いしたいと思っております。

戸敷市長

それでは、ここから私が進行いたします。はじめに、協議事項です。「宮崎市教育大綱の策定について」でございます。大綱は市全般の教育行政の柱でございますが、法の趣旨に沿って、私が策定するということになっております。

皆さんのお手元に配布しておりますものが、私の考える大綱案でございます。

この後、私の意見を述べさせていただきますが、まず、この大綱の全体構成について事務局から説明させます。

時任企画総務課長

それでは、大綱の全体構成について説明いたします。

大綱の策定に関しましては、法律に基づき市長が策定するよう義務付けられておりますが、大綱の策定にあたりましては、記載項目があるわけではなく、各自治体の実態に応じて、各自治体の判断により、作成することとなっております。

本市の大綱の構成につきましては、昨年5月に開催いたしました、第1回総合教育会議におきまして市長から提示のありましたとおり、教育ビジョン改訂版の基本理念と3つの基本目標、1つの重点目標を大綱の中でも核として策定することとしております。

それでは、1ページをご覧ください。「はじめに」でございます。ここには、大綱策定にあたっての市長の思いを載せております。

2ページの「大綱の位置づけと考え方」には、大綱策定の法的な根

抛及び本市の各種計画との関係についてまとめております。

3 ページは、「大綱の推進体制」と「大綱の期間」について載せております。策定期間は、本市の第四次宮崎市総合計画後期基本計画及び宮崎市教育ビジョン改訂版の策定期間の終期と合わせることであります。

4 ページから、市の教育行政の基本理念及び目指す方向性を載せてあります。

基本理念と4つの目指す方向性は、教育ビジョン改訂版の基本理念と3つの基本目標、1つの重点目標を核とした大綱とすることを基本的な考え方といたしておりますが、さらに市全般における教育行政を進めるうえで、市長の考えに沿った修正を加えるとともに、基本目標及び重点目標につきましては、文言も「目指す方向性」としてあります。

説明は以上でございます。

それでは、私の方で大綱の策定にあたっての説明をさせていただきますが、全体の流れ等についてはただいま事務局から説明があったとおりです。

この大綱につきましては、本市の地方創生総合戦略を推進するうえで、教育行政に関する重要な方針と認識しております。

大綱の「はじめに」に「地域の多様な主体が連携し、知恵やノウハウを共有しながら、新たな価値を共に見出すとともに、共に創り上げる「共創」の考え方を基本として、良好な生活機能や就業環境の確保を図り、『豊かな地域社会』の実現を目指していくことが重要である」と書いています。このことについては、先ほども申し上げましたが、2、3年先のことではなく、20年、30年先を見据えて、特に「ひとづくり」が鍵になると思っております。

若い世代が、宮崎に住み、宮崎で働き、そして安心して子どもを産み育てる環境が保障されていることが大切だと考えます。安心して預けられる幼稚園や保育園、学校があり、素晴らしい教育を受けられる環境が整っていることが大事になります。

宮崎で生まれ育ち、教育を受けたみやざきっ子が、宮崎市で仕事に就いたり会社を立ち上げたり、そして宮崎市で子育てをしていけるような、まちになっていくことが、地方創生の根本だと考えておりました、それを担う教育を充実していきたいと思っております。

大綱の位置づけについては、先ほど事務局の説明であったように、昨年5月に開催された第1回総合教育会議で提示したとおり、宮崎市教育ビジョン改訂版の基本理念及び目標を柱として作成することといたしました。

出来上がりました大綱は、本市の実態に合わせた内容を取り上げたところでございます。策定にあたっては、本市の教育行政に何が求められているか検討し、たくさんの時間を費やしてまいりました。

その結果、将来を見据えた宮崎市に合った大綱が出来上がったと思っております。

これまでに、教育長及び委員の皆さんからいただいた多くの意見も十分踏まえ、本日ご提案させていただきました。皆さん方の十分なる協議、そして忌憚のない意見をお聞かせいただければと思います。

それでは、大綱の前段の部分になります、3ページまでの内容について、教育長、委員の皆さんからのご意見をいただきたいと思っております。

二見教育長

私からよろしいでしょうか。改めて教育大綱がどういう位置づけなのかということ、強く感じさせるご提案をいただいたと思っております。正直に申しますと、私たちは預かった子どもをどうするかというイメージが強い機関ですが、市長の頭ではそういった垣根はないんだなということを感じました。

特に「はじめに」の部分では、宮崎市地方創生総合戦略を推進していくうえで、教育委員会として、どんなことを考えて教育行政の施策を構築していけばいいのか、また、その施策を進めていけばいいのかということが、表現も私たちが作るよりやわらかくしていただきましたので、市民の方々にもはっきりと分かりやすく示せるものではないかと感じたところです。

改めて、宮崎を愛し、宮崎のために活躍したいと思うような人財を、全市で育てていくことが大事だということを確認いたしました。

松野代表教育委員

過去に学校現場で仕事をさせていただくなかで、毎年、来年度はどのような教育目標を策定するのかということ議論してきましたが、今、市長のお話のなかで、20年後、30年後を見据えたものを土台にしながら、教育的にはどういったものにするのか、そういったものを策定したというお話を伺い、やはり視野が広いなということに本当にびっくりしております。

短期的なものでなく、市長がおっしゃいましたように、20年後、30年後の宮崎市はどうあるべきか、そこを見据えてのプランを策定されていらっしゃるということに、素晴らしさと心強さと、未来志向の夢が詰まってくるような気がいたしました。以上です。

藤元委員

47都道府県それぞれに特色がありますから、教育のあり方も、それぞれに特色があつていい時代が来ているのではないかと思います。おそらくこの教育改革も、文科省が発信して全国一斉にやるという形から、地域も地域内に提案していくという姿へと変わってきていると思うし、行政と教育界が一体となってやっていくパワーにしているほしいという願いがあるような気がします。

特色のある宮崎らしい教育とは何ぞやということが問われ続けて、市長が問い続けながら作ったと言われる言葉がすごく大きいなということと、教育というものは産業界も一緒にあるべきだという、「一体となる」という言葉が端々に出てくるのが、どちらかという弱小な県ですけれども、いろいろな人が力を合わせ、みんなで作り上げるパワーは、おそらく東京や大阪にも負けないような教育の体制ができるのではないかという気がします。宮崎は、せめてひとづくりに関しては、常に日本の先頭を走るような意気を持っていただきたいと、そのような思いが募りつつあると思っております。

何度か読ませていただきましたが、「みんなでやるよ」という言葉が強く出ていることはいいのではないかと思います。

崎田委員

私も、先ほどから言われておりますように、これまでの市長との意見交換の中で、市長が大切にされていること、人が宝であるという思いがすごく溢れている大綱ではないかと思っております。

事務局に質問ですが、この大綱の期間というのは、先ほど説明がありましたが、確認という意味で、それぞれの自治体判断で大綱も策定されていくとのことでしたが、大綱の期間についても、それぞれの自

治体で設定されると思ってよろしいでしょうか。

時任企画総務課長

そのとおりです。

崎田委員

ありがとうございます。例えば、県の大綱では平成27年から30年の間としてありました。私が探し損ねているのだと思いますが、その期間というものの設定の理由づけが探しきれませんでした。今日出来上がっている大綱の中では、基本計画と教育ビジョンとの整合性を図るという理由づけがきちんとなされていて、すごく市民の方にとっても分かりやすく表記されていると思いました。

また、推進体制についても、教育委員会と市長部局等が連携してという言い方の日本語もたくさん散りばめられていて、これが新しくなった教育委員会の制度や、総合教育会議の意味など、そういうものを考えるうえで最も大事な部分ではないかと思えます。それがきちんと書かれていて、これを原点にこれから先も推進していかなければならないという思いがすごく見えてくるような気がします。以上です。

島山委員

この宮崎という土地柄は、自然豊かで、人も温かいということをお私は大変誇りに思っています。このひとづくり、原石を光り輝く宝石にしていくことが教育ではないかと思っています。ですから、この教育が、学校、家庭、地域、行政、関係機関団体が一体となってという推進体制の文章が、大変私も感動しながら拝見したところでした。

やはり教育というのは、長期のスパンで捉えていかなければ、短期では完成するものではないと思えますし、世代が伝達している家庭での考え方、いわゆる哲学や、また、地域の特色であるとか、それらは非常に多様化していますから、さまざまな困難もあると思えますが、そこも大綱の中にいろいろな場面が盛り込まれているところに、宮崎市に生まれてよかったなということを感じながら拝見いたしました。

戸敷市長

ありがとうございました。さまざまな意見をいただきましたが、長期的に、あるいは市の総合計画との整合性を持った中でのひとづくりということで、共創という考えで、当初申し上げた一緒に、みんなでこのことを考えたいということをお位置づけ、目標というものを示したところですので、これを第一に考えて、しっかりと大綱の実行をやっていきたいと考えております。

続いて、後半部の4ページから6ページまで、基本理念及び4つの目指す方向性について、事務局から説明させます。

時任企画総務課長

4ページをお開きください。

基本理念及び目指す方向性につきましては、それぞれの基本的な考え方を説明いたします。

まず、基本理念についてでございますが、前段部分の「宮崎で育ち、学ぶことを通して、郷土に誇りと愛着をもつ、感性豊かな「みやぎっ子」の育成」が教育ビジョンの基本理念でございますが、大綱では、さらに自分の夢や希望に向かって主体的に行動できる人財を育てることを加えております。

続いて、大綱の具体的な柱となる部分である、「目指す方向性」についてでございますが、教育ビジョンは3つの基本目標と1つの重点目標で構成しております。大綱では、それぞれの柱を4つの「目指す方

向性」として置き換えて、本市全般の教育行政の方針という視点でタイトル、その概略説明、重点施策をまとめております。

教育ビジョンと比較いたしますと、文言をやわらかい言葉、わかりやすい言葉としておりますとともに、広く市全般に係る関連施策を教育委員会に留まらず考慮して作成したものとなっております。

説明は以上のとおりでございます。

事務局が説明したところ以外に、私なりの考え方を述べさせていただきたいと思っております。

基本理念にもあるように、地域の宝である「みやざきっ子」は、将来の宮崎市を担ってもらうための大事な人財と考えておりますので、郷土に誇りと愛着をもってもらい、宮崎の発展のために活躍してほしいという思いがあり、そのためには、子どものときから、学校や社会の中で起こる様々な課題に対し、主体的に考え解決しようとする人財になってもらいたいと考えています。

それでは、次の4つの目指す方向性について、触れてまいります。

目指す方向性の1つ目は、「未来をたくましく生き抜いていく力の育成」としました。

学力テストの結果が優れていればよいということではなく、「知」「徳」「体」のバランスが取れている「みやざきっ子」を育てる教育が大切だと思っております。

現在、教育委員会で取り組んでいる学力向上対策、いじめの未然防止や不登校児童生徒対策、子どもの健康体力の保持増進、キャリア教育などの施策をさらに推進することが、本市の教育行政の未来につながっていくものと考えております。

目指す方向性の2つ目は、「楽しみながら学べる環境の充実」としました。

教育の拠点であり、学びの場である学校の環境を整えることが大事だと思っております。安心して安全な学校が整うことによって、子どもたちが意欲を持って学習できるようになると思っております。

また、学校教育以外の学びの場である、放課後児童クラブであったり、図書館であったり、科学技術館や歴史資料館のような施設で、市民のニーズに合った企画や展示、講座を行って、知的好奇心を高めたり、郷土愛を高められるような仕掛けが必要だと思っております。

特に、自分の住む地域の歴史や文化財を知ることによって、地域に誇りを持ったり愛着を持ったりするようになるのではないかと。それを継承していくことが地域の絆へとつながり、まちづくりにつながると思っております。

目指す方向性の3つ目は、「子どもを守り、育む環境の充実」としました。

「子どもは地域の宝」といつも言っておりますが、地域、家庭、そして学校、関係機関や団体が子どもを見守り、育てることが大事だと思っております。

子どもたちに関わってもらい親、地域の大人、関係機関や団体の皆さんが協力して、今の子どもたちの現状、心の悩みをしっかりと受け入れ、将来を見据えて子どもと接することで、すばらしい「みやざきっ子」を育てられるのではないかとと思っております。

退職し子育ても一段落し、地域にはいろいろな得意分野で力を持ったシニア世代がたくさんいらっしゃいますので、今後の政策にも生か

二見教育長

して実践をしていくための原動力にもなっていただきたいという思いでございますので、この方々たちの力をお借りして、地域の活性化と、子育てに対する支援をお願い申し上げたいと思っています。

この方々は若い親にも子育てのよき先輩として、核家族化ということで、地域の高齢者と触れ合う機会のない子どもが、しっかりと知恵と技を持ったシニア世代から力をいただく。また、親もそれを見習った教育や地域らしさを出していくのではないかと。これが、まさしく地方創生の推進につながっていくと考えています。

目指す方向性の4つ目は、「自然災害からかけがえのない命を守る意識の醸成」としました。

東日本大震災から6年目を迎えようとしています。防災、減災の必要性を学びました。宮崎市でも海岸に近い小中学校はいち早く屋上に登れる避難階段を設置しました。また、避難タワーを建設し、広報の重要性が言われておりますので防災の情報が伝達できるよう、マニュアルを整備したりしております。

防災・減災教育というのは、釜石の奇跡と言われた、子どもたちが地域の方々まで助けるような教育をし、それが実践をされたということです。私たちは、子どもたちは計り知れない力を持っていると思っていますので、教育の中でそれを生かすことによって、地域の宝が地域を助けることにもつながっていくということ。また、これを生かさなければいけないという思いでしたので、自然災害からかけがえのない命を守るという意識と、他人の命を守るという意識を、日頃から繰り返し植えつけていくことが必要だと感じたところです。

このように、4つの項目を重点項目に掲げていきたいと思っておりますので、その点について皆様のご意見を賜りたいと思っております。

崎田委員からご質問がありましたが、教育ビジョンというのは、教育振興基本計画として、通称教育ビジョンと呼んでいますが、元々23年度から29年度までの7年間で計画をしたものです。時代の流れや法改正などで変えないといけない部分がありましたので、途中見直しをして、25年度に次のビジョン改訂版として26年度からの分を策定したところです。

いろいろな計画がありますが、整合性というのは、期間も違いますし、誰が提案するかでも違いますので、その辺りを統一しようということでした。

第1回総合教育会議で、市長から、教育ビジョン改訂版を柱にしたいとおっしゃっていただいたことが、私どもにとりましても、これまでの方向性を大事にさせていただいたということで、感謝を申し上げたところです。

表現は教育委員会の施策をまとめたものであり、市長の思いがどんな形で表現されるのか、教育委員会としても待ち望んでいたところがありました。

拝見させていただき、基本理念、4つの目指す方向性について、そこには、関連する市長部局の所管する施策を念頭に置きながら作成されており、市長の思いが十分に伝わっていると感じております。

目指す方向性の1つ目では、市長の言われるとおりの「知」「徳」「体」のバランスの取れた教育が大切であると思っております。その力が将来の職業につながったり、家庭を持ったときに子育てに生かされるのではないかと思っています。

目指す方向性の2つ目では、学校と言うと確かな学力や心身の健全な育成ができる環境が整っていることが大事ですし、図書館や科学技術館などの施設は子どもだけではなく多くの市民が利用する施設ですので、市民のニーズに合った図書の選定や図書の並べ方であったり、各世代のニーズに合ったプログラムの提供をすることが大事になると思います。

また放課後児童クラブにつきましては、市全体で考えますと、保護者のワーク・ライフ・バランスを支援する施策として必要と考えますが、教育委員会におきましては、放課後に児童を安心安全に見守る場所として必要であると考えますし、保護者の帰りを待っている間に、学校で学習した内容を復習する時間としての活用ができています。今後も待機児童はゼロというわけではありませんが、市民のニーズにあった施設の活用を考えなければならないと思います。

目指す方向性の3つ目では、子どもたちを見守ってくれる、支えてくれる保護者であったり、地域の大人であったり、地域の団体であったりが、一緒になって協力し、子育てや教育をすることが大事だと思います。

市長から話がありました、シニア世代による支援の仕組みが出来上がっていくと、新しい施策の構築も可能になっていくのではないかと考えております。

そのためには、今後関わっていただく方が、将来の宮崎市を担う子どもたちを育てるための、保護者向けの研修であったり、社会教育団体等向けの研修であったり、シニア世代向けの研修やプログラムの提供であったりが必要となってくるのではないかと思います。

目指す方向性の4つ目では、3. 1 1の東日本大震災で被害を受けた、宮城県山元町立中浜小学校の校舎の屋上に上がった経験が、市長に避難階段を造ってほしいと相談したきっかけでした。すぐ近くに迫る海を見たときに、間違いなく宮崎市と一緒にだということを感じた場面でした。子どもたちをいかにして守れるか、そのことを一心に考えた結果でした。

やはり、日頃から自分の命を守るという意識、家族や地域の人を守るという意識に関わる教育の必要性を感じています。

また、子どもの意識とともに、災害が起こったときの対応のシミュレーション、避難する、災害弱者の避難を支援する訓練が子どもたちには大事だと思っています。

教育委員会が主に関わって作成した教育ビジョン改訂版に載せていることとはいえ、市長の策定する大綱という位置づけにもなりましたので、大綱に書かれた内容については、市長部局とその関係機関・団体としっかりと連携し、推進していくことを決意したところでございます。以上です。

島山委員

印象に残ったことを言わせていただきたいと思います。3つ目の、「子どもを守り、育む環境の充実」の中の、「保護者が子どもの教育について学べる機会の提供」が、非常に素晴らしいなと思いました。世代を越えて、いろいろな保護者がいらっしゃる中で、子どもとともに学べる機会を提供される。これがどういうふうに展開されていくのかという辺りを、非常にわくわくしながら拝見しました。

子どもたちがもっている力を、宮崎市が、大人たちが、地域が、どう育んでいけるかということについては、子どもだけではなく共に

松野代表教育委員

学べる環境づくりや、支援団体の皆さんがどのようなサポートをしてくださるのか、この辺りは大変興味深いなと思いました。

第四次宮崎市総合計画の中の、目標5は「郷土を誇りに思い、心豊かな人が育つまち」ですが、これを受けて、大綱の目指す方向性が4点ほど示されているとのことで、非常に市の行政と教育行政との整合性が図られているということを感じています。この表現の仕方についても、大変わかりやすい表現で、これですと具体的な姿がにじみ出てくるような気もします。市長のご説明にもありましたが、例えば目指す方向性の1つ目では、「知」「徳」「体」の調和の取れた子どもを育てることが大切であるとのことでしたが、この中で具体的に書いていないものとして、例えば、いじめを未然に防止するというようなこと、また、キャリア教育の大切さもこの辺りに出すとのご説明もあり、非常に深いものがその裏にはあるということを感じました。

そのほか、2、3、4とありますが、教育ビジョンにも書いてありますように、宮崎で育ち、学ぶことを通して、郷土に誇りと愛着をもつ感性豊かな子ども「みやざきっ子」を育てるということが、1から4まで具体的に述べられており、大変具体性があり、わかりやすい表現がされていると思います。

特に、4番目の減災・防災につきましては、3.11以降非常に早い対応で海岸端の学校にも配慮がなされてきましたし、そういう姿というのは、市民も十分理解されているところだと思っています。そういったことから、自信をもって4つの目指す方向性に取り組めるような気がします。以上です。

藤元委員

非常にわかりやすく易しい言葉で表現がなされていて、「生きていく力の育成」とか、環境の充実も2つに分けて、環境をより充実させるという思いが入っていますし、災害についても、予防する、準備をすることの大切さを常に問い続けていることがわかるような、非常にいい言葉が書かれていると思います。

その中で、どういう学力が「確かな学力」なのかとか、どういう豊かさが今から求められるのかとか、具体的なことが今からどんどん問われてくると思います。例えば小学校は全般的に学び、中学校では少しずつ得意分野が決まり、高校に行くと理系、文系に分かれてという今までのあり方も、おそらく時代の要請が理系、文系ではない時代になってきているので、自然科学、社会科学的な分かれ方で、人を育てていくにあたっては科学に行くから理系でいいというわけではなく、国語や英語も必要といろいろなことが起こってくるので、こういう表現をされた以上は、確かな学力とは何か、そういうことを突き詰めていく姿勢が大事だと思います。

もちろん宮崎に帰ってきて、宮崎のために尽くしてくれる子も必要ですが、宮崎から出て行って、世界平和などに対して頑張る子も必要だと思いますので、ぜひ具体的なことも少しずつ市長の言葉の中から今後出てくることを期待したいと思います。

もう一つ、地域力が非常に落ちていきますので、地域が支えて地域が子どもたちを教育するという言葉が出てきますが、本当に地域が疲弊しつつあるので、地域をどう活性化させるかということも、翻ると教育に非常に関わる点が多いと思います。特にこのように「社会性を育む」という書き方をされるとなると、更に責任感が必要になると思

崎田委員

うので、市長の言われる一体感というものが、そこで問われてくるだろうと思います。市長もかなり責任をもって表現されたのではないかと思います。頑張っているなと思った次第です。

全体的なことで、「みやざきっ子」という言葉が、私は非常に好きで、委員会でも、この言葉はよく使ってきたと思います。どの地域にしても、自分の地域の名前を入れて「まるまるっ子」とネーミングだけでも、より身近なものとして受け止めることができるような気がします。その言葉が、市の総合計画の中にも入っておりますし、もちろん教育ビジョンの中にも入ってきておりますので、その辺りで市の行政としての計画と、教育行政としての連携が感じられます。

ほかにも、将来の都市像の中の「次世代につなぐまちづくり」や、「人財力」とか、常に子ども目線でそこを中心に置いた思いというのが、ずっと流れているような気がして、この言葉を大事にしていきたいなと思ったところです。

施策についての文言はすごくシンプルに書いてあるので、具体的にどうなんだろうということは、私もいろいろ考えたところがありましたが、今日、市長の詳しいお考えもお聞きできましたし、細かな施策については教育ビジョンの方を十分に汲み取って作られているということが見えてきますので、具体的な施策については教育ビジョンに委ねてあるのかなと思いました。市の教育委員会との連携の中で子どもを育もうという姿勢が浮き彫りになったような重点施策ではないかと思います。

戸敷市長

ありがとうございました。それぞれ意見を聞かせていただきましたが、基本理念から目指す方向性は、先ほど最初に基本理念の中で、自分の夢をもって将来どうしようかという子どもたちを、しっかり育てていかなければいけないということが大きな目標であり、今を生きる私たちにとっては責務として捉えなければいけないということをし、しっかりと書かせていただきました。そして、行動ができる人財を育成しないと、宮崎だけのことではなく日本全体に影響することかなと思います。そこには、私たちが人財を育成する役割をもった地域性、これは宮崎市には、22地区の自治区という形になります。そこで集中的にできる方法はないかということ、次年度の政策の中に反映できたらと思っています。これは全国的にやっているのかなという思いがしますが、私どもは当初教育長さんも言われましたように、宮崎市が先行してやるような雰囲気はどうしてももっていきたい。そのことが宮崎の地方創生の原点として、教育を基本に据えていけたらという思いがあり、夢をもたせないといけないという思いのために、40万市民が結束しようじゃないかという思いも出させていただいたところです。また、それを実践しない限り将来は危ういなというのがあって、私たちの子や孫、ひ孫が宮崎を活性化していく原動力になる「人財」という形を、改めてここに出させていただきました。

今日いただいた意見等については、しっかりと必要性を感じましたので、大綱として正式に公表させていただく機会を作っていきたいと思っております。以上で、大綱の策定についての協議は終わりたいと思っておりますが、付け加えることがありましたらお願いします。

二見教育長

一件だけ、紹介させていただきたいことがあります。

私は生目台中学校区の成人式に行きました。あそこは特に矢方さんたちが一生懸命していただいています、この成人は寺子屋の一期生たちです。それで、「この子たちがどう育っていくのか心配しながら、夕方以降勉強などを見てきたし、関わってきた」とおっしゃっていましたが、「納税者になっているよ」とおっしゃるんですね。地域が見届けまでできるのは成人式が最後かと思いますが、これが地域だし、中学校区でやることのよさなのだと改めて感じましたし、それぞれの地域が子どもたちを守っていただいているということを感じたところでした。

戸敷市長

私も、正月3日に田野に行きましたが、「田野が大好きです。だから、私たちはここに二十歳になったら成人として何をすべきか」と意見した子どもがいました。青島にも行きましたし、若い人が地元のすばらしさを少しずつ感じてきているのかなと思います。皆さんも感じてきているし、私もそういう意見を聞いて、宮崎は確かに前進しているなという印象を受けたところです。

地域の人たちが、合併以前もそうですが、合併後10年経って、地域を主体としてまちづくりをやろうじゃないかという動きが教育にも反映され、ひとづくりにも反映されているような気がしています。これが宮崎らしさとして、素晴らしいみやざきっ子を育成するひとつのいしずえになっていくのかなと思います。その基本をみんなでもっていっているなという思いがしたところです。非常に嬉しく思いました。

それでは、ほかにないようですので、先ほど申しあげましたように、これを策定して正式に公表させていただくということによろしいでしょうか。

教育長・教育委員

はい。

二宮教育局長

ありがとうございました。

以上で、大綱に関する協議を終わらせていただきます。

続きまして、意見交換に移らせていただきたいと思います。会議の終了を午後3時30分としており、残り40分ほどとなります。再び、戸敷市長に進行をお願いしたいと思いますので、よろしく願いいたします。

戸敷市長

私の方で進行をさせていただきます。

それでは意見交換に入ります。今後の教育の課題として、何が必要かということで、最初にあげさせていただいたのは、いじめをストップできる力の育成です。この力をどのようにやったらいいのかということを考えておりますので、先に私の考えを述べさせていただきたいと思います。

毎年ありますが、いじめについての報告や全国での話、自ら命を絶つという悲惨な報道を耳にしますが、本当に心が痛みます。なぜ大人がそれをしっかりと制御できないのか、止めることができないのかという思いです。当初申しあげましたとおり、宮崎市ではいじめの件数が多いのではないかと議会でも言われましたが、逆に小さいものでもいじめではないかという認識の共有を、しっかり出していただいているということで、私は逆に、それをいじめと認めずに違う方向で行く

二見教育長

ような状況ではなく、しっかりと目を見据えてやるような方法を考えていったらどうかということで考えています。後で資料等も説明をさせていただきたいと思いますが、いじめを、親も子どもたちも私も一緒にあって共有するには、どうすればいいのかなと思います。また、いじめを受けた子どもたちが、どういうふうな形で相談ができ、解決の方向に向かっていくのか。最終的には人権問題だと思います。人権問題を根本から私たちが共有をし、育成をして人権を侵害することを阻止しないといけないと思います。そういうことをしっかりと教育プログラム、あるいは一般行政の中でも考えていければと思っていますところでは。

いじめ防止対策委員会等も設置をしていただいて、専門的な意見を聞き対応をしていますが、件数を減らす目的ではなく、根本を減らしていくということを考えていければと思っていますところでは。

そこで、皆さん方の意見をお聞かせいただければと思います。まず、教育長さんから実態等について説明をお願いします。

不登校児童生徒対策と並んで、教育委員会としても、非常に大きな喫緊の課題だと毎年捉えざるを得ず、市長からも指示懸案事項としていただいているテーマでもあります。

本市の取組といたしましては、平成25年3月に、宮崎市いじめ防止対策方針を策定、平成26年7月に、宮崎市いじめ防止対策会議を立ち上げ、5名の外部委員を委嘱し、いろいろな意見や指導助言もいただいております。

平成27年度は、会議を3回開催することとしており、すでに2回実施してきたところであります。委員からは、例えば、各学校での情報モラル教育が意図的、計画的に確実に実施されるような手立てが必要である。学校の他にも相談できる窓口があることを子どもたちに周知していく必要がある。重大事態が発生した際の学校や教育委員会が行う調査等に関するマニュアルの作成が必要である。などの助言をいただいたところであります。

それでは、資料3をご覧ください。年次的ないじめに関する認知件数で言いますと、平成25年度から集計の方法が変わりまして、平成26年度は平成25年度よりも減少しておりますが、年次的に確実に減少しているかどうかはまだ明確には示すことができない経過年数です。

学校種別の傾向では、小学校の認知件数が中学校のそれよりも多いです。また、学年の傾向で言いますと、高学年の認知件数は低学年の認知件数よりも減少する傾向があります。この傾向は小学校でも中学校でも同様の傾向にあります。男女差があると言えるまでの傾向にはありませんでした。この、小1から小6までを見ていただきますと、認知件数が非常に多いというご意見がありました。そうだろうと思います。ただし減っていくものは本当はないのかどうかは、私たちでは確かめようがないところですが、学校では記名方式や無記名方式を繰り返し、件数の把握や、もし見つかった場合は早期の対応に努めているところでは。その学年が進むと減るという傾向は、中学校も同じようなグラフ化して見ることができます。

市長が、いじめをストップできる力と言われましたが、被害者がおり、加害者がおり、ある研究者の方は、その周りには観衆のはやしたてるタイプがいて、その外側の第4層目には傍観者がいて、その観衆

と傍観者の3層目、4層目の子たちに止める力があれば止まるが、それは集団の力でしかないということをおっしゃっていますが、まさにそのとおりだと思います。

そこにはありませんが、相談したか相談していないかを聞くと、相談したという子たちが小学校、中学校ともに7割はおります。相談していないという子も、逆に3割近くいます。相談は誰にしたかという小中学校で少し相談相手が違ってまいります。小学校はやはり保護者や家族が1番で、学校の先生が2番目、3番目が友人です。中学校では1番目が学校の先生、2番目が保護者、3番目が友人です。友人がトップにならないということは、今の子どもたちの人間関係が難しくなったなと思いますが、そういった傾向です。相談してくれればまだいいですが、相談せずに自分で抱える、特に親には言えないという子どもたちがいるのは確かです。いじめが続いているのかということについては、学校としては8割以上解決に向かっていきますと言っていますが、無記名でやると、続いているという子どもたちもそれより少し多くなる傾向がありますので、アンケートだけで正直なところは本当の実態は掴めないのだろうと思っております。

最後に、いじめ防止を目的としたプログラムが、各地域や他の県で取り組まれています。私も教育委員会として、そのプログラムを体験しました。小さなワークショップでしたが、畠山委員と私が出て体験しました。心情的には小さな正義かもしれませんが、「もういい加減にせんか」という思いになれたことを体感しました。そういったプログラムもあり、予算も必要なことですので、来年早々ということは難しいですが、研究しながらそういうプログラムを全部の学校でできればいいですが、できなければ各学校にそういうプログラムを広げる人を育成することができればいいなと思っております。

辛い思いをする子どもがいないような取組を、研究し検討したいと思います。一緒に参加した畠山委員も感想をお持ちだと思います。

畠山委員

いじめる方もいじめられる方も、結果的には心の傷が残るので、何でそういう現象が起きてしまうのかなと思いますが、うちの会社にも子どもをもつお母さんが仕事をしていますから、子どもたちのことや学校のことを話します。

ある番組でやっていましたが、朝の時間に生徒を一人前に出して、他の生徒がその生徒に向かって、一人ずつその生徒のいいところを毎朝言うそうです。そうすると、いいところを言ってもらった子どもは、大変自信がついていきますから、心が満たされます。毎日言わなければならないので、人のいいところを一生懸命見ようとする。見ようとする、相手を理解しようとする、そういう分かり合おうとする心を育てていくことも大事なのかなと思いました。

私も教育長とともに体験させていただきましたが、ワークショップの中でシミュレーションを体験することも大変いいことだなと思いました。子どもの世界も大人の世界もいろいろありますので、心の傷はできるだけ小さい傷で、それが次の優しさになっていくような対策が取れるといいと思います。今、教育長がおっしゃったように、アンケートの数字は全てではないということが大切だと思います。表に出てこないところをしっかりと見ていける体制、ひとづくりが大切なのかなと思います。

みんなの前で褒めることの大事さと、子どもにささやいて褒めてあ

げることの大事さ。個性をいかに感じ取れる指導者や環境があるかということが大事なのではないかとも感じているところです。

藤元委員

我々の会社でも、高校を出て入ってくる子にもいろいろな子がいます。我々のサービス業は一流企業ではないので、落ちて落ちて最後に引かかったというような子がたくさん来ますので、本当にいろいろな人がいます。そのときにいつも気付くのは、うちの支配人は私の一つ年上で、やはり体育系で彼はバレーをやってきて、私はバスケット、二人で一生懸命内省をやっている中で、30年ぐらい前から、なかなか従業員が留まりません。教えてもすぐ辞めてしまいます。結局何かと二人で考えて、常に俺たちがお前たちを見守っているよということを、向こうに気付かせないといけないと思いました。それを翻ってみると、大変申し訳ないですが、先生たちのご努力が最大に必要なのかなど。先生は常に僕を見ていてくれるという部分があって、先生がどう早く気付くかということが一番大事かと思えます。先生の教育力の向上が大事だと言わせてもらいました。うちの場合は、家庭で親から非難を受けて、「私は人間じゃないと言われてきました」というような子たちもたくさん来ます。社会環境がどんどん変わってくると、親は共働きしなくてはいけない、給料は安くて、家で子どもが文句を言うと、子どもはうるさいと言われて、家にも居場所がないような子が就職してくることがありますが、「会社にいる間は僕らも幸せなんですよ」という子は続いている気がしたので、私としては教室が一番大事なところで、特に1年生のときにどの先生になるのかということは、すごく大きなウェイトを占めると思っています。その教室が、学校は楽しいなという気持ちを作るのは1年生、2年生だろうと思えます。先ほど市長が言われたように、いじめをなくす方法というものはないと思えますが、せめて小学校1年生、2年生の教室はハッピーな教室で、早く学校に行きたいと思う気持ちを作っていく教室運営が、小さな力ですが私として考えられる最大の方法かなと思っています。

毎回同じ意見で申し訳ないですが、なかなかいじめというものとは難しく、そのいじめを受ける環境も違いますので、先生が中心になって教室を盛り上げることが、私としてはいじめが減少することではないかと。我々の会社経営からみると、会社イコール教室かなという気がして、そこにいる社長さんやマネージャーが常に見守っていくということが大事なのではないかと思えます。

戸敷市長

社会に出てからもということですね。早く手立てをしていかないと、そういう状況になるということもありますね。

藤元委員

1年生というのは、ものすごく大事ではないかと思えます。

松野代表教育委員

素晴らしい先生とはどういうものだろうかと考えますが、1つ目は教科などの指導力で非常に高いものを持っていらっしゃる方は当然ですよね。2つ目は豊かな人間性だと思います。3つ目がとても大事だと思いますが、実践的指導力、この3点目を欠いたら、前の2つは生きてこないような気がします。

実践的指導力というのは本当に子どもが困っていれば、どういうふうに関わったらいいいのか、具体的にその先生なりに豊かな人間性を駆使していくことだろうと思えます。それがおそらくある場面だけでは

できないと思います。自分のクラスでこの子はいじめられているということが分かったとしたら、どういう手立てを取ったらいいのか。実践的指導力なんです、道徳やいろいろな教科、いろいろな指導がありますよね。その中で、いじめられているなと思う子どもに、ある程度スポットを当ててその子を引き立たせ、励ます。できたらみんなの前でスポットを当ててあげる。そういうことが実践的指導力ではないかと思っています。時にはみんなの前ではなくて、その子だけを呼んで個別に指導することもあると思います。これはみんなの前で、他の子どもに聞かせたいというときにはそういう手も使える。そういう判断力があるかどうか、備わっているかどうか。その辺りが、先ほど教育長がおっしゃった、相談相手で友人が少なく、特に中学校では3番目だということは、先生に言ってもまた仕返しがる。そのくらいなら我慢して言わないほうがいい。それを見越したなら、先生はそういう学級を変えていく実践的なアイデアが出てこなければだめだと思います。いろいろな本を持ってきて話して聞かせることもあっていいでしょうし、最終的には藤元委員がおっしゃいましたが、先生に期待する面は本当に多いと思います。以上です。

藤元委員

学校訪問をさせていただいた時に、先生が、相談される先生がいるということがとても嬉しいということをおっしゃっていました。先生同士もネットワークがあって、困ったときに先生が相談に行ける先生がいるということがすごくいいと発言されたことがありました。いじめられている子がどうしようと悩んだときに、助け舟を出すときにこうしたらいいと言える先生のネットワークがあるといいですよ。

崎田委員

子どものいじめをストップさせる力の育成ということで考えると、私は2つアプローチの仕方があると思っています。

1つ目は大人に対して、学校の先生や教育行政で関わる方、保護者といった大人に対してのアプローチと考えると、先ほど市長からもお話がありましたとおり、いじめの認知件数がすごく上がっているということは、悪い方に捉えるのではなく、関心があり、周囲の目がより向けられているということの表れなので、前向きに受け止めるべきことなのではないかと感じています。その中で、先生方は先生方なりに、すごく努力されています。学校教育課の指導主事の先生方の話を聞くと、そこでもすごく迅速に対応されて、それぞれ現場で努力されている姿が見えるのに、それでもなくなるという現状があるということで、子どもたちの心理や状況を、大人が見抜いているのだろうかということを突きつけられているような気がします。

先ほど、教育長からお話があった、アンケートの聞き取り調査だけで出てくるものではないという言葉聞いてすごく安心しました。そういう目を持っている大人がいるということがすごく大事なことで、これで解決したではなく、継続していくものだとすることで、更なる検証をしていかないといけないのかなと思います。その中で研修を深めたり、指導力を高めたり、いろいろな側面があると思います。

保護者の立場から考えると、自分も人間なので、ちょっとしたことでかっとなったり、へこんでしまったり、いろいろな感情が対人関係の中で生まれて、それは当たり前のことだと思いますが、それを子どもたちが処理するときに、小さな芽のうちに、これはいじめなんじゃないか。これはやってはいけないことなんじゃないか。ということをし

気付かせる手立てが必要なのではないかと考えています。それを育てるのが周りの大人でもあるし、すごく曖昧ですが、私はいじめに関わらず、社会的に悪い行動、例えばごみを捨てるとか、友達に暴力をふるうとか、そういう小さなことも、すべて感覚から生まれるものだと思っているので、子どもにそれを嫌だと思える感覚を育てないといけなかなと思います。ごみを捨てたらいけないと習ったから捨てないとか、誰かに怒られるから捨てないではなくて、ここに捨てたら気持ち悪いなと思えるような感覚を、子どもたちの中に育てていきたいなという思いがあります。

2つ目のアプローチは子どもだと思いますが、先ほど教育長からもお話があったように、私も一緒に教育委員会連合会の方で、ストップいじめモードというプログラムを受けました。小学校4年生になって体験するというので、最初は戸惑いがありましたが、それを体験させていただいた時に、子どもが学ぶ場が必要ではないかなと思いました。それも適切な時期に、一度そういうものをきちんと学ぶべきだと思います。やっちはいけないということを知っていて、先生や親からもそんな話があるけれど、クラスとなったときに、そこで発揮されないということもあるのではないかと考えるので、しっかりと学ぶ場が子どもにとって必要なのではないかと考えた時に、あのようなワークショップ形式のプログラムはすごくいいのではないかと思います。

その時は、指導された方が淡々としたゆっくりとした語りで進めていかれて、受けた時はそんなに感じませんでした。後で考えてみたら、それが学担の先生ではないよさがあるなと思いました。学担の先生だと、子どもたちの力関係や利害関係を理解しているうえでの授業や展開をされると思います。それはそれで有益で必要なことですが、どうしても結果を求めてしまい、こういう意見を言うと先生が喜ぶということ、子どもたちも分かっているお互いの立場なので、あえて学担の先生ではない方に入っていただいて、プログラムを進めていただき、それを先生と一緒に学ぶ場もすごくいいのではないのでしょうか。淡々とした話しぶりで、あまり抑揚もつけずに進めていかれたのが、後々考えた時にじっくり考えさせられました。この意見を言っているかな。これは私の感覚で大丈夫なのかな。ということを考えてながら手を挙げていた時間だったような気がする。これが学担の先生ではないよさかなと思いました。

こんなことを申し上げていいのだろうかと考えていましたが、教育長からもお話があったので、宮崎市の取組として叶えられるのであれば、予算が伴うことで難しいと考えているのですが、あのプログラムに限らずともいろいろなメソッドがあると思いますが、どこかでそれを学ぶ場が、宮崎市の取組として位置づけられていくと嬉しいなと思いました。

戸敷市長

予算が伴うと言われていたのですが、自ら体験されて子どもたちの立場になって、大人や学校の立場から解決ができるということであれば、積極的にやるべきだと思います。

二見教育長

これはうちの学級でいじめが起こったからプログラムのインストラクターに来てくださいというものではありません。4年生でやるものをプログラム化しているというのは、ギャングエイジが始まる4年

生がいじめと言うものが本当のいじめで、小学校1、2年生が言うのは、けんかをして負けて泣いて帰っていじめられたと言う件数があがっているから、学年が上がるにつれて件数が下がってくるのだと思います。ですから、4年生を注目してのプログラムということをインストラクターの方々ははっきりおっしゃっていました。4年生といっても市内で100クラスほどありますので、かける単価ということになります。何百万もかかる話ではありませんが、いろいろなことを考えながら、優先的にしないといけないものもありますので、まずは件数が多い学校は私たちで把握できますから、少しでもプログラムの周知と啓発、訓練を受ければ、担任や学校の生徒指導主事が自分でできないことはないと思いますので、いろいろなことを研究していかなければならないと思います。

もう1つお話をさせてください。アンケートを取っても、教師の観察力をいくら鋭くしても、すぐ限界がくるということを私たちは経験しています。アンケートにしても、日本中である事件を見ても、気付いていなかったというものが大方です。そうすると、誰の力を一番頼らなければならないかということ、市長にもご報告させていただいた懸案については、傍観者だったと思います。その子がもう見ていられないという一心から、学校に相談してくれたから対応ができたというケースでした。今回、全ての学校長とのヒアリングがありましたので、校長の自分の言葉で、そのことを語ってくださいとお願いしました。「もういい加減にせんかというケースを見たら、自分では止められないだろうから、学校に一報してほしい。お願いするよ」そういうトーンで、「報告しなさい」などではなくて、辛い子を出さない学校にしようということ、自分の言葉でぜひ語ってくださいとお願いしました。

なかには、そのように正義感に基づいて放っておけないと言って、学校に相談してくれる子たちがいることも間違いないのが宮崎市の子どもたちです。そういった子どもたちの、自分で解決する力も大事にしながら、また、いじめがあろうがなかろうが、そのプログラムに実効性があるというふうに認められているので、あちこちで広がり始めていると思いますので、そういった導入についても検討、研究はしていきたいと思っております。

戸敷市長

認知件数が多いということは、先生方がしっかりと子どもを把握しているということでもあるので、ものすごくありがたいと思います。全国でもいろいろな事例があって、認知していなかったようですが、それではおかしいと思う。宮崎市としては、件数はしっかりと把握をしながら、適切な指導をし、責任体制を持ち対応していきながら、実践で解決する方向に少しでも導いていってほしいと思います。

いじめの問題だけではなく、教育というのはどこかで愈ったら、ものすごく影響が出てくるような気がします。私は、宮崎のあり方というのは、校長先生方にも申し上げておりますが、隠さずに私たちの仕事としてオープンにして出していれば対応ができる。それで予算が必要ということであれば、出していこうと考えていますので、先生方にも遠慮なくおっしゃっていただいて、宮崎はすごいよと言われるような状況を作り、親にも認知させないといけないですね。親も隠してしまって子どもを擁護して、前回も申し上げましたが、不登校が増えているのではないかと。それをなくさないといけない。いじめが起

因したのか、病気が起因したのかわかりませんが、不登校の子どもたちが義務教育を受けずに社会に巣立って、誰が一番後悔をするかという、親が保護しているうちはいいですが、社会に出ていけない子どもが一番不幸ではないかと思います。そのことを私たちは、現場にいる人間としてしっかりと認識を持つべきだと考えております。

それでは、時間が来そうですがいかがでしょうか。

二宮教育局長

もう一つテーマを考えておりましたが、大変熱心なご議論をいただいておりますので、時間までこのテーマで続けていただき、いじめ問題だけで意見交換を終わりたいと思います。

戸敷市長

時間がまだ残っているとのことですので続けます。

私は、親に認識させることが大事かなと思っております。地方創生の流れとして、3万3千人の子どもを、40万市民がどういうふうに育成していくかという共創をやらないといけないのではないかと思います。いじめの問題でも、地域でも気付くことがありますよね。学校だけではなく地域も家庭も必要だと考えておりますので、それらも地方創生のひとつの目玉として、地方創生では地域の宝探しから宝磨きという話をされていて、宝の第一は子どもだなと思っています。そこに手を差し伸べないとだめだと思っています。

畠山委員

少し極端かもしれませんが、日本人は恥の文化といいますか、弱音を吐かない、人に話せないというものを隠し持っているところがあると思います。それを話せる、言葉に出せるというものがあるといいなと、私はいつも思っています。ですから、先生や親、友人、教育機関、相談機関があると思いますが、まず小学校に入学するときに、保護者と子どもの先生との関係を築くことの大切さを、繰り返し伝えていくことしないのかなと思います。

戸敷市長

恥と思うこと自体がおかしいということ認識をしていくと、相談もできるし、相談も受けやすいという状況になると思いますね。

畠山委員

自分にひとつ、他に負けない何かがあれば大きな自信になっていって、そういうことをはね返すものになると思うので、ひとつ何かを見つけられる教育になっていくといいのかなと思います。何でもいいと思うんですね。そこがいじめ対策の大きなものになるのではないのでしょうか。

松野代表教育委員

なかなか難しいですね。まず、誰が一番相談するかという、私の経験では親でした。親は小さい頃からいろいろなことを聞いてくれましたから、家に帰ると話が止まりませんでした。困ったときもその調子で、こんなことに困っていると話すこともありました。あれは、家庭で親と子で話す機会が多くなるということが、ひとつのポイントになるのかなと思います。話を伺いながら思ったことでした。

二見教育長

いろいろな新聞記事で、保護者の方が辛い思いの中でも、「気付いてあげられなくてごめんね」というコメントをされますが、子どもが気付かせていないんですね。子どもは、親には気付かされたくない

という思いで家に入っていますから、気付けないことが大前提で、学校もそうだというのが今回のケースで、アンケートに出てこないことの方が、私たちはいつもアンテナを張っていないといけないと思いますし、一番解決の力になるのは集団だということも改めて感じましたので、そういった、学校側の子どもたちへの、指導ではなく啓発や意識改革、こんな学校にしたいという学校の目標を語ることだと思いました。件数ももちろん減らさないといけないですし、いじめをしない子どもたちを育てていかなければいけないと思っております。

戸敷市長

積極的に私どもも議会や広報で発言をしながら、隠して子どもを窮地に追い込むよりも、相談を受けて、しっかりと対策が練られていて、学校でも一般行政でも地域でもやっているというアピールは、常に続けていくべきだと思います。親はこどもの養育の面で責任を持っているわけですから、学校でも何でも相談していただく体制も必要かと思えます。認知をしていただくこと、そういう開かれた部分があるということをもっと公表し、そういう感覚を持っていただきたいと思えます。

藤元委員

教育長が言われたとおり、言いつけたとか、スパイだとか言われて、報告をするということがなかなかできないムードを変え、「この学校は傍観した人はどんどん報告してね。自由にそういうことができる学校ですよ」というふうにして、その現場を見てすぐに先生に報告できる雰囲気が、学校にできるようになることが一番いいような気がします。告げ口したからどうこうということは、うちの学校にはなくて、それが正しい正義だということが生まれてくるような学校教育であるといいと思えます。そういう雰囲気の学校になれば、言った本人もありがたいと言われるかもしれないし、言われた方も今度は言う側に回るかもしれない。いい循環が生まれるかもしれないので、傍観者をどう報告者にするかということは、すごく大きなことだと思います。

戸敷市長

P T Aもですね。自分の子どもには本当に指導できない親が多い。ところが、人の子どもの相談を受けたり、人の子どもに指導することは、意外と親が連携しているからやりやすいんですね。このことも共有すべき重要な課題かと思えます。特に元気のいい子どもたちには、集団で連携をとってやることで、逆に将来的に、こどもたちが敬うようなP T Aの組織になっていくところも現実に見ていますので、これは先生方ばかりにお任せするのではなくて、最終的には保護者が責任をもってどう取り組むか、その連携がP T Aの組織かと思っています。そのアピールも、機会があるごとにやっていきたいと思っています。

藤元委員

先生がリーダーを見つけ出して、常に何人かのリーダーに監視をお願いすることも大事ではないかと思えます。

戸敷市長

松野委員も言われましたが、先生ではなくて生徒同士の指導力といいますか、力をもっている子どもに誰かがサポートしてあげたり、先生を助ける子どもがいると変わっていくような気がしますね。

藤元委員	学級委員長ではないまとめ役のような子がいると、クラスが非常によくなっていくような気がします。
戸敷市長	「お前の力を借りないと難しいよ」と言うと、頑張ってくれるかもしれませんが、そういうことも必要かなと思います。あらゆる力、総合指導力というところから解決方向に行くかもしれませんがね。先生が一人で悩んでいても、絶対にできないと思います。
藤元委員	傍観者も自分のためでもありますよね。
二見教育長	いじめ根絶週間を、各学校、特に中学校を中心にやっていて、アンケートの中身を紹介したり、自分たちの学校からは出さないということを宣言したりします。 見ていて、もういい加減にしてという声を出すグループも男女関係なくいます。そういう力をみんなが引き出せたり、自分で言えなければ学校側に相談してくれたりすればいいと思います。とにかく早く発見しないと、長引くことが一番心配ですので、学校での啓発等も先日お願いしたところでした。また徹底したいと思います。
松野代表教育委員	かつて文部科学省が、「学級に正義を行き渡らせる」という素晴らしい言葉が使われたことを思い出しました。本当にいい言葉だなとつくづく思います。
二宮教育局長	それでは、会議の最後に市長から一言お願いいたします。
戸敷市長	第2回目の総合教育会議ということでしたが、教育大綱、いじめ問題、そしてもう一つテーマを設けていましたが、そこまで行きませんでした。本当に大事なことに對していろいろな意見をいただけたと思います。これが、より子どもたちに行き渡り、保護者や地域と連携ができ、地方創生の原点になることが確認できましたので、実践をしていきたいと思います。教育というのは永続的にやるということですので、人づくりが大事だと言いますが、私たちの将来を見つめながら、今後も皆さんにお力添えをいただき、一般行政と教育行政で連携ができればと考えております。今後ともご指導とご支援を賜りたいと思います。 本日は、長時間に渡りましてご意見をいただき、誠にありがとうございました。
二宮教育局長	それでは、以上をもちまして、第2回宮崎市総合教育会議を終了いたします。